

サポクラ 通信

令和4年(2022年)9月号

今月の内容は...

- ・エゾタヌキとプレーリードック1
- ・RACCOON NEWS5
- ・ニホンザリガニの今～2022～9
- ・アザラシのハズバンダリートレーニング11

えぞたぬき

蝦夷狸

タヌキは、キツネと比べると目が黒くつぶらで、愛らしい印象を受けます。また、目の周りに黒い毛があり両側が下がっているのでパンダのように「垂れ目」で、おっとりとした印象を受けます。しかし、よく見ると瞳孔は縦長で、キツネと同じような目をしています。

2022年7月撮影

ゆき♀

種名 エゾタヌキ

学名 *Nyctereutes procyonoides albus*

意味：夜に彷徨う 白い 原始的な動物

英名 Raccoon Dog

意味：アライグマのような犬

アイヌ語 モユク/モユクカムイ

意味：小さな獲物/タヌキ神

分類：食肉目イヌ科

生息地：北海道の一部に分布

特徴：ホンダタヌキの亜種。夜行性。ネズミ、カエル、鳥類、卵、魚類、昆虫、幼虫、ミミズ等の小動物、果実などの植物を食べる雑食性の動物。



皆様こんにちは。いつもご支援いただきありがとうございます。
エゾタヌキ、プレーリードッグ担当の川本です。今回は動物たちの近況についてご紹介します。



エゾタヌキのからだ

毛

全体的は薄茶色だが、目の周り、肩から前肢、後肢、尻尾の先端などは黒い

目(視力)

チョンと立ちキツネなどより小さく丸い

鼻

嗅覚は非常に良い

耳

チョンと立ちキツネなどより小さく丸い

歯

鋭い歯をもつが、おもに果実を食べる



しっぽ

長い毛がありふさふさしている

足(脚)

四肢は短い。足の裏に肉球があり、足跡は梅のよう

胴体

秋になるとよく太り、夏になると細くなる



夜行性のどうぶつ

休息中、こちらに気がつき、顔をあげる「ゆき♀(左)。りく♂(右)」は、ゆきの体に頭をのせて休んでいることが多い。

夏毛と冬毛で変わるタヌキのすがた

どれだけ変化するのか見てみよう！

冬毛

2月

換毛中

顔周りはスッキリ！

夏毛

8月



まんまるで
モフモフの姿



ゆき♀



外見は
犬やキツネのような姿

タヌキというと、まん丸でモフモフなイメージがあると思いますが、夏のタヌキは冬毛が抜け落ちてとてもスリムな姿になります。これから秋になると果実などを沢山たべて脂肪を蓄積するので丸々と太り、なんと夏の体重の1.5~2倍にまで大きくなります。ゆき♀、りく♂も夏から食欲があがってきています。放飼場にはコクワや山ぶどうを植え、タヌキたちが本来の採食行動をとれるよう、工夫しています。

たぬきといえばため糞！

どこの場所でどのように糞をしているのかな？

タヌキは、複数頭のタヌキで同じところに、糞や尿をしていきます。共通のトイレのようなものです。同じところに糞を重ねていくので、こんもりとした糞の山ができていきます。大きなもので直径50cm、高さ20cmにもなるので、よくクマの糞と間違えられます。溜め糞はタヌキにとって大切な情報交換やコミュニケーションの場所となっています。行動範囲を他個体に示したり、糞の内容物から食べ物の情報を得るなど、大切な役割があります。



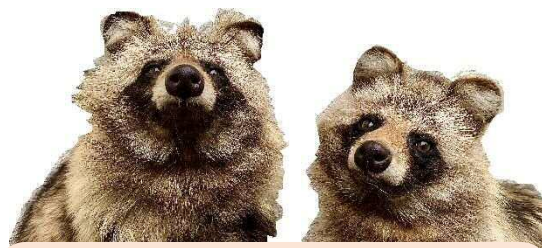
ゆき♀とりく♂の
ため糞場

りくが糞をしたあとに、すかさず、ゆきがやってきて、糞やおしっこを重ねていきます。是非、2頭のため糞場を探してみてください。



お尻をあげて
糞をするようになる

糞をする時はしっぽを上げます。フンに高さが出てくると、お尻をあげて糞を重ねていきます。



エゾタヌキは季節によって様々な姿を見せてくれますので、春夏秋冬の中で移りゆく姿を、是非見に来てください。

2022年4月撮影

キキ♀

オグロプレーリードッグ

プレーリードッグは穴掘り名人

顔や体に土がついています。プレーリードッグは穴掘り名人！地下に作る広大な巣穴で生活をしています。巣穴の部屋には、それぞれ役割があり、避難場所、寝室、子育て部屋、トイレなどに分かれています。彼らは巣穴を掘ること、掘りなおす事に時間を費やしています。

種名 **オグロプレーリードッグ**

学名 *Cynomys ludovicianus*

意味：尾の先端が黒いネズミのような犬

英名 **black-tailed prairie dog**

意味：尻尾の黒い、草原にすむ犬

分類：げっ歯目リス科

生息地：北アメリカ中部

特徴：「キャンキャン」と犬のような鳴き声で仲間に危険を知らせるため、「草原(プレーリー)の犬(ドッグ)」という名前がつけました。草原地帯に穴を掘って巣穴をつくり、コテリーと呼ばれる一夫多妻制の群れで生活しています。



現在、円山動物園では、メス3頭、オス4頭がくらしています。



プレーリードッグのからだ

耳

穴掘りにじゃまにならないように小さくなった

からだ

身体全体が円筒状。トンネル内の移動に向いている

目(視力)

目は遠くまで見渡せる優れた視力

鼻の穴

砂が入らないよう、閉じることが出来る

歯

22本。門歯(前歯)は一生、伸び続ける

前肢の爪

巣穴を掘るために丈夫な爪がある

毛並み

毛並みは短く滑らかで、トンネル内の移動に向いている

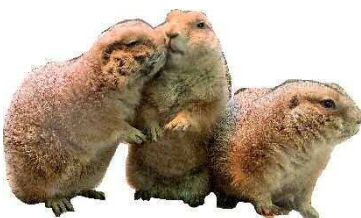
尾

尾は短く、尾の先は黒い



コミュニケーション

群れで行動するため、個体同士のコミュニケーション手段が豊富です。そのため巣穴の暗い中でも仲間を認識することができます。



巣穴を掘っている姿を観察してみよう！

どのように掘っているのかな？



穴を掘り始める

前肢のかぎ爪を使い、砂を掘っていきます。たまった砂は後肢を使ってさらに外へ出していきます。入口の砂が崩れないように、鼻面を使ってドンドン！と砂を固めていきます。



巣穴が完成！

適当に掘っているように見えますが、実は穴には色々な役割があり、寝室、トイレ、食料貯蔵庫などに分かれ、考えて作られています。



巣材を運ぶ

巣穴には色々なやくわりがあり、その一つに寝室があります。口に乾草をくわえ、穴へ運びます。



全身砂だらけ！

砂を掘り終わったあとは、爪をなめて砂を落としケアをしています。



巣穴に逃げ込む

警戒心が強いので危険を感じると穴の中に入ります。

プレーリードッグは地上で暮らしているリスの仲間、穴を掘って巣穴の中で生活しています。その生態を皆さんにお伝えするため、やわらかい赤土を入れ、プレーリードッグが穴を掘って生活ができるようにしました。また、1週間に1～2回、水を撒きながら砂をかく拌させていきます。巣穴も壊すので、かわいそうと感じるかもしれませんが、プレーリードッグの生息地は北アメリカの乾燥した土地です。日本の気候は湿度が高いため、巣内で発生したカビから皮膚病になってしまうこともあります。巣内は地中なので掃除をすることができないので、飼育員が定期的に巣穴を掘り返し、衛生を保っています。プレーリードッグたちもすぐに穴を掘りはじめます。

体重測定で健康管理をする

飼育個体の体重管理はとても大切です。プレーリードッグは季節によって、餌の量も体重も変化します。動物園では月に1～2回の体重測定を行っており、個体の変化を把握しながら健康管理をしています。



円山動物園では、ガラス越しにプレーリードッグを間近で見ることができます。穴を掘っている様子を観察しながらプレーリードッグについてもっと興味をもって頂けたら嬉しいです。



RACCOON NEWS

※「Raccoon」とは、アライグマの英名です。

皆様こんにちは。こども動物園でアライグマを担当している大久保です。
今回は、今年の6月に円山動物園にやってきたアライグマについてお話ししたいと思います。

アライグマがやってきた！

当園では、2022年1月まで推定11歳のアライグマ「チャン♂」を飼育していましたが、肺炎のため死亡してしまいました。アライグマは、来園者に特定外来生物の問題について考えてもらう役割を担う種であることから、2022年6月に新たなアライグマを導入し、展示を再開しました。今回導入したアライグマの愛称は、「チャロ」と名付けました。以前飼育していた「チャン」から「チャ」の文字を引き継いでいます。

特定外来生物であるアライグマは、農業被害や生態系被害等を抑え、生息域の拡大を防止するために駆除されています。この度、北海道岩内郡共和町からアライグマの現状を知る機会を提供するためにと、特別に捕獲した幼体を動物園へ譲っていただきました。その個体がチャロです。チャロは、農地に設置した箱ワナに2頭で捕獲されました。捕獲されたもう1頭は、おびひろ動物園（愛称：チャチャ）で飼育されることになりました。2頭は姉妹である可能性が高いため、おびひろ動物園のアライグマ担当者の方と相談し、姉妹っぽく似た愛称を名付けました。



6月 体重 0.94kg

動物園にやってきた時の写真です。離乳が始まり、成獣と同じエサが食べられるようになってくる生後 1~2 か月くらいと思われます。



7月 体重 1.9 kg

エサは残さず食べ、すくすく成長しています。野生では母親にくっついて外に出ている時期で、まだまだ甘え盛りです。



8月 体重 3 kg

いろんな人から「大きくなったね!」と言われるようになりました。担当者の手を甘噛みすることがありますが、どんどん噛む力が強くなっています…。



9月 体重 3.5 kg

エサを少しずつ増やし、成獣が食べる量に近づけています。チャロは、プールの中にフンをする癖があるようです。

おへやをリニューアル

アライグマを新しく導入するタイミングで、獣舎もリニューアル(?)しました。アライグマの獣舎は部屋が3つに分かれています。以前はすべて似たような景観をしていました。今回は、3つの部屋にテーマを決め、それぞれ異なる景観をしています。



1つ目のテーマは、**森林**です。

野生のアライグマの生息地は、本来は森林や沼地、湖などの水辺付近が多いです。器用に木の上に登る姿を見ていただければと思います。



2つ目のテーマは、**農地**です。

アライグマの農業被害を伝えるため、寄付で頂いたスイカやメロン、トウキビなどをこの部屋で与えるようにしています。最近はいでんスイカを寄付で頂いたため、チャロに与えたところ、皮のギリギリまできれいに食べていました。



3つ目のテーマは、**民家の庭**です。

アライグマの被害は農業だけでなく、屋根裏に侵入し、糞尿によって天井に穴が開いたり、家の壁の隙間に潜り込んで出産したりするなど、人の生活にも及んでいます。また、神社などの歴史的建造物の柱に爪痕がつき、建物の損傷につながるといった被害も報告されています。

さいごに

北海道だけでなく日本全国でアライグマの被害は深刻な問題となっており、アライグマの捕獲・駆除の数も増加しています。私たちの生活や、日本の生態系を守るためには必要なことです。

アライグマは、ペットにするため日本に持ち込まれましたが、野生動物を一般家庭で飼うことは難しく、面倒を見きれず野外に捨てられアライグマや、管理できずに逃げだしたアライグマが、野生化し、繁殖し数を増やしています。人間の都合で日本に連れてこられたアライグマが、人間の都合で駆除されているということ、よく考えなければなりません。このようなことを繰り返さないために、私たちにできることがあります。

外来生物を**入れない**

飼育・栽培している外来生物を**捨てない**

すでに野外にいる外来生物をほかの地域に**拡げない**

この3つは、外来種被害予防3原則とされています。

まずはきっかけとして、この記事で外来生物について知ってもらえたら嬉しいです！

ニホンザリガニの今～2022～

いつもご支援ありがとうございます。先月に引き続き登場の片岡です。今月のサポクラ通信では私のもう一つの担当であるニホンザリガニについて、今年度の円山動物園での飼育の現状、取り組みについてご報告したいと思います。

今年度の繁殖について

今年度の繁殖のためのペアリングは昨年 10 月頃に行いました。相性を見ながら普段は個別に飼育をしているオスとメスをペアリングしていくわけですが、相性が悪ければどちらかが食べられてしまう事もあるので気が抜けません・・・ペアリングが成功するとメスのお腹にはオスからもらった「精包」と呼ばれる精子の白い塊が見られ、産卵をする春までお腹につけて暮らします。昨年の秋はなんとか 5 ペアのペアリングに成功し、無事産卵を迎えられるよう祈りながら春が来るのを待ちます。



↑ 交接の様子

精包



抱卵中の様子

今年の産卵は 3/12 から始まりました。昨年度では 2 個体でしか見られなかった産卵も、今年度はペアリングしたメス 5 頭全てで確認する事ができました。しかし卵の状態が悪い、夏に向けての水温の調整など様々な原因と考えられますが、抱卵している卵が孵化前に消えてしまう現象が今年度も見られたのです。最終的に孵化まで至ったのはメス 2 頭の卵だけでした。来年度は今年の反省、対策をしっかりと行い、少しでも産卵・孵化率がより良いものになるよう取り組みます。

今年度は 7 月上旬から 40 頭の幼体が孵化しました。孵化した幼体は親から離れた時点で個体ごとにプリンカップに移し（共食いを防ぐため）、冷蔵庫にて飼育管理していきます。幼体の飼育管理方法についてはまだわかっていないことも多く、過去円山動物園で孵化した幼体は、繁殖可能な成体（5 歳）になる前に死んでしまう事が多いのが現実です。死んでしまう理由としては様々な要因が考えられますが、今年度は今までの飼育から得られた知見、また専門家の方からご指導いただいた事を基に、より良い結果となるよう取り組んでいきたいと思ひます。



↑ 冷蔵庫は水温を一定に保てるのが最大のメリット

8 月末の時点で全長 1.2 cm 程度→

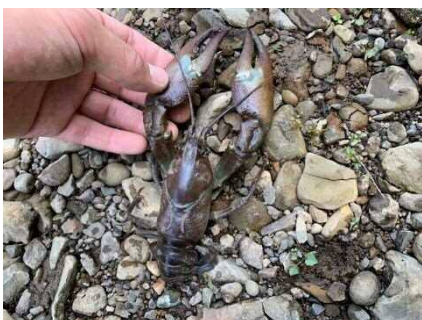


動物園の森の小川

動物園の森の小川へのニホンザリガニの放流に向けた準備が着々と進んでいます。北海道大学にてニホンザリガニを研究されている先生に実際に現場を見ていただき、今後小川にニホンザリガニを放流するにあたりどのような環境の整備が必要かアドバイスをいただきました。まだまだ課題はたくさんありますので動物園の森のボランティアさんなどに協力していただき、小川をよりよい環境へしていけたらなと考えています。今はニホンザリガニが生息するのに問題がない水温か調べるため、小川の3か所で年間を通じて水温データを取っています。いつの日かニホンザリガニが定着して、来園者の方と小川にいるザリガニを探しながらガイドをすることを目標に頑張ります。



水温のデータロガー



ウチダザリガニ



厚別川での防除の様子

ウチダザリガニの実態

特定外来生物にも指定されているウチダザリガニ。彼らは北海道で現在爆発的に生息数を増やし、在来水生生物の捕食や水生植物の切断、ニホンザリガニの生息数減少の一因（生息地の競合、捕食、ザリガニペストなど）となっています。そんなウチダザリガニが数年前から札幌市内でも確認されており、ニホンザリガニを担当する私としては非常に危機感を感じています。札幌市としてもウチダザリガニが確認されている川（簾舞川・厚別川）での防除活動を行っていて、円山動物園も防除に参加・協力させていただきました。捕獲されたウチダザリガニは数多く、サイズも様々。抱卵している個体も捕獲されました。札幌の川でも定着・繁殖してしまっている事実を痛感しました。今後これ以上生息域を広めないために何が出来るか札幌市全体、いや日本全体で考えていく必要があるのかもしれない。

※ウチダザリガニは特定外来生物に指定されているため一般の方が捕獲して持ち運ぶ事は法律で禁止されています。防除従事者には、札幌市より防除従事者証が発行されています。また、どう罫を使って捕獲する場合、石狩振興局から内水面における採捕許可を申請し、許可を取得したうえで捕獲しています。

2年ぶりのニホンザリガニ円山会議開催！

ニホンザリガニの現状などを多くの方に知っていただくためのイベント、「ニホンザリガニ円山会議」。コロナの影響もあり、約2年ぶりとなりましたが、今年の3月に動物園会場とオンラインでのハイブリット方式で開催いたしました。今年で3回目の開催となりましたが、今回も様々な専門家の方にご講演していただき、多くの方に参加いただきました。本当にありがとうございました。今年度中に4回目の開催を考えておりますので、皆さん奮ってご参加頂けたらと思います。よろしく願いいたします。



ZOOMでの同時配信の様子

アザラシのハズバンダリートレーニング

皆さんこんにちは。アザラシとホッキョクグマ飼育担当の中田です。

今回はアザラシで行っているハズバンダリートレーニングについてお話します。

ハズバンダリートレーニングとは？

動物の健康管理に必要な行動を動物たちに協力してもらいながら行うトレーニングのことです。麻酔をかけないとできなかったことや、動物たちのストレスとなっていたような検査などが、より安全にかつ定期的に行えるようになります。

当園では給餌のタイミングに合わせてトレーニングを行っています。

ゴマフアザラシの給餌の順番は決まっています、アザラシたちは順々に餌場へ上陸してきます。よくお客様から「なんで自分の順番がわかるのか」と質問を受けます。

ホッキョクグマ館ができた当初は全頭同時に上陸していましたが、職員が順番を決めて与えるようにしたところ、自然に覚えて今の順番に1頭ずつ上陸するようになりました。

日によって全頭スムーズに上陸することもあるれば、なかなか顔を出さない個体がいる日もあります。

それではここから日々どんなトレーニングをしているのか項目ごとに分けてご紹介します。



吻タッチ

誘導する時や、新しい動きをしてもらうときに使う基本の動作です。他の動物では棒の先に口を当ててもらいますが、アザラシはこぶしにタッチしてもらいます。



マウスオープン

口腔内の状態を確認しています。色がいつもと違ったり、出血があったりした場合は体調不良の可能性がります。



前肢出し

怪我をしていないか確認しています。飼育下ではあまり爪を使わないので、伸びていたり、割れていたりした場合爪切りもします。



歯磨き

基本的に餌は丸呑みしているため、歯垢が歯の表面に溜まっていきます。歯垢を毎日除去することで、歯周病の予防につなげています。

採血

採血は後肢から行います。定期的に採ることで血液データの平均値を出したり、病気の早期発見につなげたりしています。



ブロン・エコー（超音波検査）

横たわった状態から体を傾けることで腹部にエコーを当てて、体の中の状態を見ることができます。

寝室（非公開）で飼育しているゼニガタアザラシのジージーは、先日腎臓のエコーに成功しました。これからも見ることでできる部位を増やしていきたいと思っています。



個体によって、できることや進行度には違いがあります。

それは、人と同じようにみんな個性があるからです。

警戒心がかなり強くて死角に職員がいるのを嫌がる個体もいれば、遊び好きでいろんなことに興味を持つ好奇心旺盛な個体もいます。

これからも、それぞれにあったトレーニング方法で、

少しずつでもできることを増やしていきたいと考えています。

引き続き応援のほどよろしくお願いいたします。